

暗証

あんしよう

現在では、様々な場面で暗証番号を入力する機会が増えました。

時々、あれ、ここの暗証番号何番だったっ

け？ということが、たまに：いやいや、多々あります。

この暗証という語、元は仏教用語だったのです。といっても、現在とは大きく意味が異なります。現在の暗証は、本人を確認するための、他の人に知られていない番号などを言いますが、仏教の暗証は、証（さとり）に暗い、真理にほど遠いという意味でつかわれます。

どこの世界でも、実践派と理論派、現場と会議室の間では争いが絶えません。仏教の世界も例外ではありません。お経に書かれた文字に固執する学者達と、真理は文字で表されるものではない、禅によって体得できるものだ」と主張する禅僧との争いがあったのです。この際に、学者たちが禅僧を非難する言葉として暗証が用いられたようです。「あの禅僧たちは、お経の意味をまったく



理解していない」と。

お釈迦様が開かれたさとりは中道。どちらかに固執する事がないという意味です。ベストよりベターを選ぶ。これが争い解決への一歩でしょう。



全ての数字は、1の積み重ねです。多いも少ない、老任取

仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



いる私たちを救わねばと働いて下さる。いつでも、どんな時でもはたらいてくださる。いのちがっながっていく浄土真宗の教えです。

うか。助かる見込みのない患者を、痛みなく人為的に死なせる事に、一時話題になりました。
安楽とは、古代インド語で、〈sukha〉安らかで心地いい状態を意味していました。そこに場所をあらわす〈vati〉が加わり、〈sukhavati〉安楽国となります。これは、阿弥陀如来の国、安楽浄土や極楽浄土の事を指します。
葬儀の際に、弔辞で「安らかに眠りください」と言われることがよくあります。しかし、先に逝った人は安楽浄土で安らかに眠っているのか…。ここを親鸞聖人はいのちをダイナミックにつなげる教えを弘めたのです。
安楽浄土に往生し、さとりを開いた人は、まだ迷っている私たちを救わねばと働いて下さる。いつでも、どんな時でもはたらいてくださる。いのちがっながっていく浄土真宗の教えです。

安楽

あんらく

安楽と言われて安楽死と想像した方も多いのではないでしょ

